

平成20年度(2008年度)
ヤマハ発動機スポーツ振興財団
年間事業報告書

YMFS
www.ymfs.jp



YMFS



財団法人
ヤマハ発動機スポーツ振興財団

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500
Tel. 0538-32-9827 Fax. 0538-32-1112

財団法人
ヤマハ発動機スポーツ振興財団
Yamaha Motor Foundation for Sports

総括編

2008年度の全体報告

2008年度の個別事業総括

CONTENTS

総括編

2008年度の全体報告	3
2008年度の個別事業総括	
・スポーツ振興支援事業	5
・スポーツチャレンジ助成事業	7
・スポーツ文化事業	9

活動実績編

スポーツ振興支援事業	
・セーリングチャレンジカップ イン 浜名湖 2008	13
・第20回全国児童 「水辺の風景画コンテスト」	15
・スポーツ教材提供	19
スポーツチャレンジ助成事業	
・スポーツチャレンジウィーク	23
・スポーツチャレンジ体験助成	26
・スポーツチャレンジ研究助成	27
・国際スポーツ奨学金	28
スポーツ文化事業	
・WEBサイト	29
・表彰制度 「スポーツチャレンジ賞 功労賞・奨励賞」	30

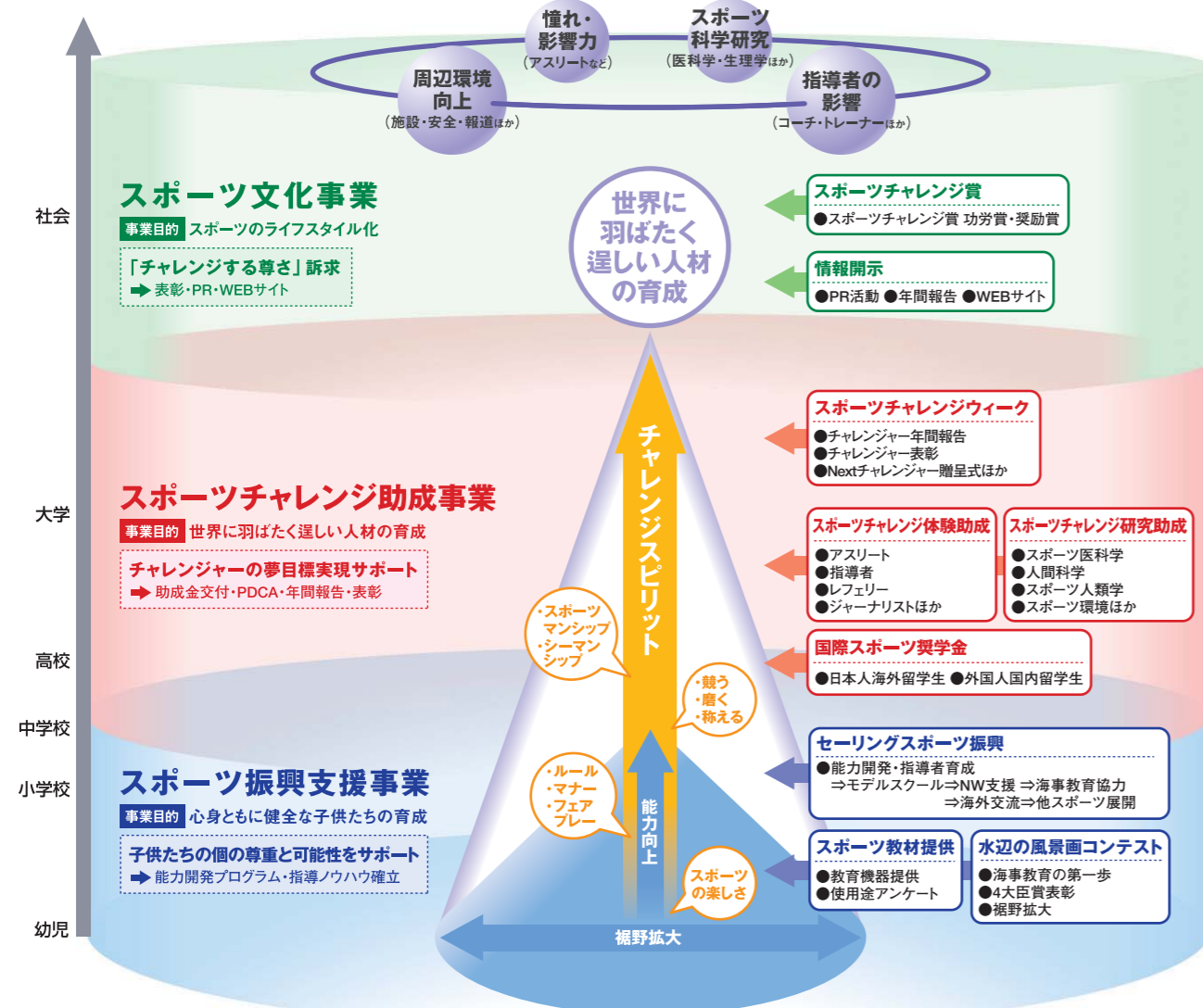
2008年度事業活動カレンダー

月	日	財団運営関連	事業関連		
			スポーツ振興支援事業	スポーツチャレンジ助成事業	スポーツ文化事業
1	28	スポーツチャレンジ助成 審査委員会(第2期生)			
	30				YMFS通信 Vol.5 発刊
2	22	第一回理事会 第一回評議員会			
3	21~23		セーリングチャレンジカップ イン 浜名湖		
	25~27			スポーツチャレンジウィーク 2008 ・第1期生チャレンジ報告 ・第1期生修了証授与式 ・第2期生助成金贈呈式	
4	17		スポーツ教材募集 (4/20~6/30)		スポーツ教材提供リリース (募集期間:4/20~6/30)
5	13			【第2期生活動支援①】 ●チャレンジャーカルテ ・目標管理シート ・四半期報告 ●コミュニケーション ・メールマガジン ・応援訪問・アドバイス	YMFS通信 Vol.6 発刊
6	14		葉山ジュニアヨットスクール30周年		
	25				
7	4		スポーツ教材提供抽選		
	10		水辺の風景画コンテスト募集 (7/10~9/30)		スポーツ教材提供先決定リリース
8			北京オリンピック 北京パラリンピック		
9	1			スポーツチャレンジ助成 第3期生募集(9/1~11/20)	スポーツチャレンジ助成 チャレンジャー募集リリース
10	24			【第2期生活動支援②】 ・四半期報告・返答 ・メールマガジン ・応援訪問・アドバイス ・WEBサイト掲載	
11	4		水辺の風景画コンテスト本選会		
	17				スポーツチャレンジ賞 功労賞・奨励賞 候補チャレンジ推薦受付
12	5	第二回理事会 評議員選定委員会 第二回評議員会 第三回理事会			
	10			スポーツチャレンジ助成第3期生 論文審査(審査委員会)	スポーツチャレンジ賞 功労賞・奨励賞 審査事務局会議
	11		「公益財団法人」申請 ・内閣府に電子申請 12/16 添付書類届出		

2008年度の全体報告

財団趣意	「豊かな人間性涵養」に効果的なスポーツの振興およびスポーツ文化向上による国家社会への貢献		
財団活動ポリシー	<ul style="list-style-type: none"> ● スポーツを通じて自己の夢実現にチャレンジする人を応援する(個の尊重) ● チャレンジスピリットの喚起・醸成 		
テーマ	2006年度(平成18年度)	2007年度(平成19年度) ＜1年目＞	2008年度(平成20年度) ＜2年目＞
中期テーマ	＜草創期＞ 体制・財政・事業の基盤構築と事業を軌道に乗せる		
年間テーマ	設立	財政基盤安定化	公益財団法人申請
事業テーマ	事業開始	事業を軌道に	事業を点から線へ

財団事業概念図



年間スケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
財団運営関連		(22) 理事会・評議員会										(1) 新法施行 (5) 理事会・評議員会 (11) 公益財団法人申請
事業関連			(21) (23) セーリングチャレンジカップ イン 浜名湖					(1) 水辺の風景画コンテスト募集			(24) 審査・入賞者決定	
スポーツ振興支援事業				(21) スポーツ教材募集		(30) 抽選・配布						
スポーツチャレンジ助成事業	(28) 第2期生審査委員会		(25) (27) スポーツチャレンジウィーク(成果発表会・修了式・贈呈式)					(1) 第3期生募集			(20)	
スポーツ文化事業	(30) YMFS通信 Vol.5 発行					(23) YMFS通信 Vol.6 発行						(17) スポーツチャレンジ賞案内
	＜適宜＞リリース・インフォメーション・WEBサイト更新											

活動テーマ

■「公益財団法人」申請

- 適確な申請手続き
(定款変更案/新体制組織/申請書類ほか)
- 健全な財団運営と安定した財務状況
- 事業の公益性と貢献性

■事業を点から線へ

- 各事業活性化と着実な成果
 - PDCAの徹底(情報開示の質・量拡充)
- ① セーリング提携スクールネットワークによる振興活発化
 - ② 「チャレンジする尊さ」の訴求
 - ③ 表彰制度の企画・打ち出し

活動の総括

■「公益財団法人」申請

内閣府、文部科学省の指導のもと、着実に準備し、12月11日に申請を行った

■事業を点から線へ

スポーツチャレンジ助成事業では着実な実績成果をあげたが、今ひとつ成果をあげきれなかった事業もあり、次年度の課題とする

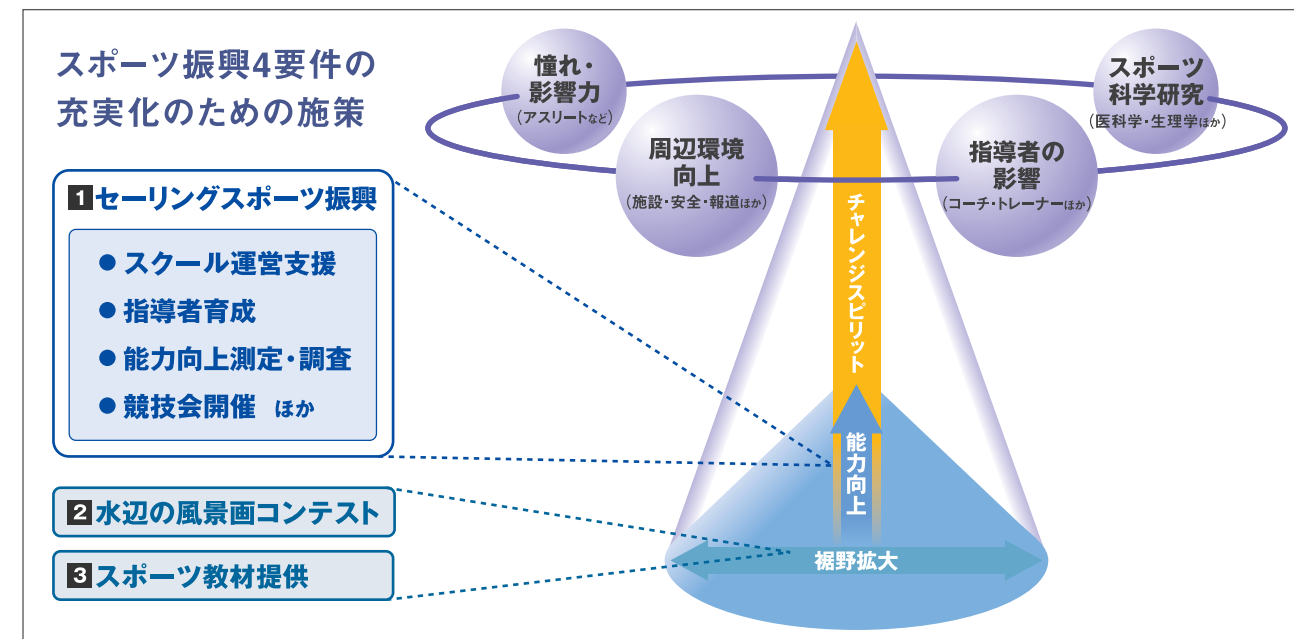
- ① 指導者育成、教習艇貸し出し支援などによる活性化を図るも、セーリングスポーツ振興への効果は不十分
⇒ 来年度政策の見直し
- ② 3月開催のスポーツチャレンジウィーク(成果発表会)の成功
⇒ PDCAの徹底と適確なアドバイスがチャレンジ成果に結びついた
- ③ 「スポーツチャレンジ賞 功労賞・奨励賞」を企画、打ち出した
⇒ 「チャレンジの尊さ」訴求・浸透を図るべく権威ある賞を目指す。今後、社会とのコミュニケーション力向上を図る必要性

2008年度の個別事業総括

スポーツ振興支援事業

テーマ	心身ともに健全な子供たちの育成
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● セーリングスポーツにおける子供たちの能力向上 ● セーリングスポーツの裾野拡大

活動概要



年間スケジュール

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
心身ともに健全な子供たちの育成 ▼能力向上・裾野拡大	1 「提携セーリングスクール(ネットワーク)支援」	① 指導者育成支援	指導者資格取得支援(日本体育協会指定) 4スクール6名(現在進行中)											
		② 競技会開催支援	セーリングチャレンジカップ イン 浜名湖											
		③ 体力測定	体力測定											
		④ 生徒用テキスト&DVD作成配布	テキスト配布											
		⑤ クラブ訪問&意識調査実施	意識調査											
		⑥ 葉山スクール運営	30周年記念イベント											
2 水辺の風景画コンテスト		公募												
3 スポーツ教材提供		公募												
		④ 提供先抽選・配布												
		24 本選会入賞者決定												
		使用レポート												

活動報告

1 セーリングスポーツ振興

● 子供たちの能力向上と裾野拡大を目的に、全国15ヶ所の提携セーリングスクールへの支援策を実行

① 指導者育成支援

● 日本体育協会指導員資格取得(1年間通期の受講)、YMFS提案の指導講習受講(3月)の支援
※ YMFSが受講料を負担支援。現在、4スクールにおいて6名が受講中。2009年3月に資格取得予定

② 第16回「セーリングチャレンジカップ イン 浜名湖」開催 ▶活動実績編 参照

● 3月21日～23日、浜名湖にて全国17クラブのジュニアからユース世代62名が参加
● 大会の目的は、一年間の自己の練習成果の確認と次年度への目標設定の場とすること
● 北京オリンピック代表の飯島選手、松永選手、上野選手が特別アドバイザーとして参加講演と選手への直接指導、アドバイスなどにより、参加者の満足度は高いものとなった

③ 体力測定

● 4月・12月の2回、提携8スクール53名の体力測定を実施
● 目的は、子供たちの基礎体力を調査し、トレーニングに生かすことであり、各人にフィードバックした
※ 調査項目: シャトルラン、反復横とび、V字腹筋、握力、スクワット、懸垂

④ セーリングスクール生徒用テキスト・DVDの制作

● セーリングスクール生徒用テキストとDVDを制作し、提携スクールへの配布と販売を開始

⑤ 提携セーリングスクール訪問と意識調査の実施

● いわき、琵琶湖、玄海、葉山の各ジュニアスクールを訪問し、現状のヒアリングを実施
⇒ 生徒数の増加がない、指導者の高齢化、運営資金難など、各スクールの課題を把握
● 意識調査については現在集計中

2 第20回全国児童「水辺の風景画コンテスト」実施 ▶活動実績編 参照

● 7月1日～9月30日の3ヶ月間の公募を実施。全国47都道府県より5,291作品が寄せられた
● 10月9日の予選会で約300点の入選作品を選出。その中から10月24日本選会にて入賞作品を決定
※ 文部科学大臣賞・国土交通大臣賞・環境大臣賞・農林水産大臣賞として各1作品、小学校高学年・小学校低学年・幼児の3部門において各部門ごとに金賞2作品・銀賞3作品・銅賞3作品および特別賞7作品を決定

3 スポーツ教材提供 ▶活動実績編 参照

● 4月20日～6月30日の約3ヶ月間の公募を実施。全国から191件の応募が寄せられた
● 7月4日、岡崎日本体育協会専務理事立会いのもとに抽選。48提供先を決定、配布した
● 提供先から使用用途のレポートをいただき、活用方法や感謝の声をいただいた
※ 6月に起きた岩手・宮城内陸地震の被災地である栗原市の小学校2校から応募があり、特別提供とした

総括と課題

■ 提携セーリングスクールへの支援を開始し、指導者資格取得支援をはじめセーリング振興のための施策を展開したものの、各スクールでの運営上の課題も大きく、裾野拡大にはあまり結びつかなかった
⇒ 次年度は、各提携スクールへの支援を継続しつつ、セーリング振興の道筋を作るべく3年をメドに直営葉山スクールのモデルスクール化を図り、海外交流や指導者育成などあるべき姿の構築を始める

■ 水辺の風景画コンテストにおいては、応募点数は多少減少したものの、コンテストの目的である「水辺での実体験・実感」から描かれるイキイキとした作品が増加した
⇒ 今後も保護者や学校・保育園の先生方への理解浸透を図る

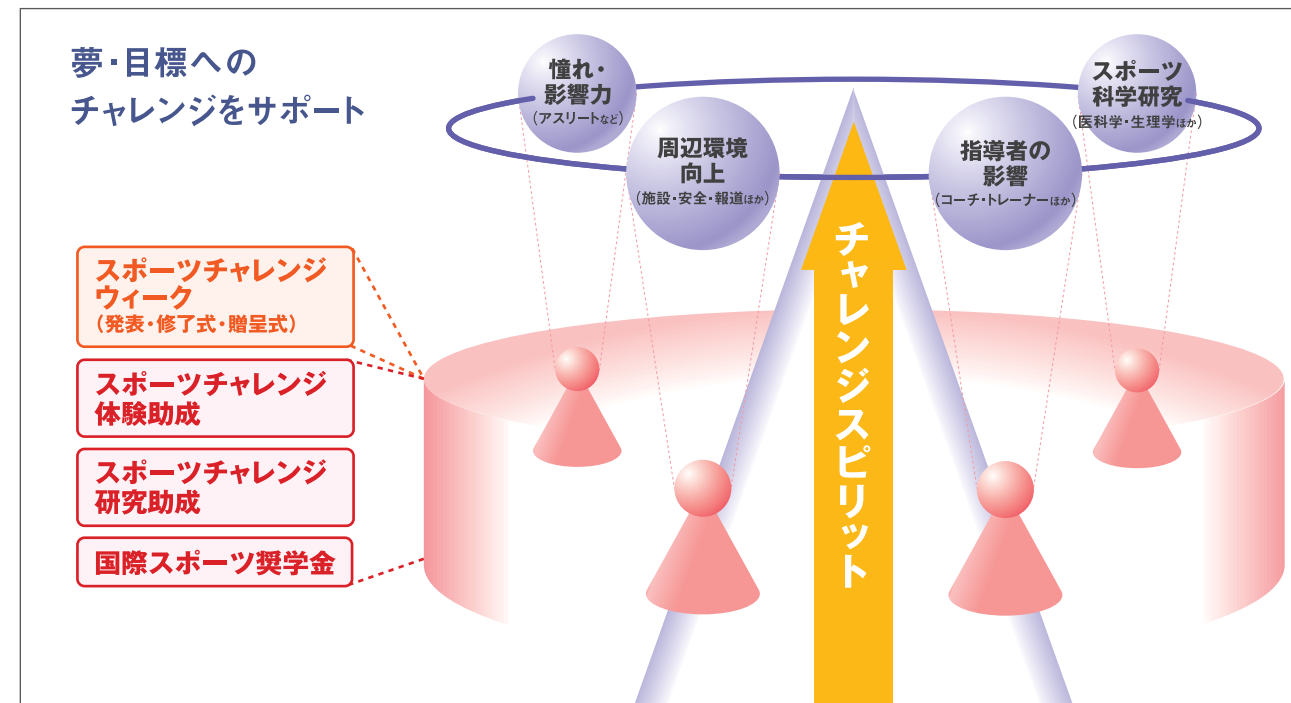
■ 裾野拡大のための施策である「スポーツ教材提供」には全国から多くの応募があり、昨年同様、スポーツ指導者の熱意が十分に伝わってきた。また、スポーツ活動での有効活用と同時に「モノを大事にする心」も芽生えるという声も多くあり、より一層の浸透を図りたい

スポーツチャレンジ助成事業

テーマ 世界に羽ばたく逞しい人材の育成
⇒ チャレンジャーが成果の実感を得て、NEXTの目標設定をする

課題 チャレンジャーが1年間のチャレンジを通じて、次につながる何か(成果)をつかむようにサポートする

活動概要



年間スケジュール

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
世界に羽ばたく逞しい人材の育成 ▼チャレンジスピリットの喚起	スポーツチャレンジウィーク			○スポーツチャレンジウィーク開催									
	スポーツチャレンジ体験助成				○期間:3/25~3/27 会場:マイプラザ 内容: ①第1期生チャレンジ報告 ②第1期生修了証授与式 ③第2期生助成金贈呈式 ④1期生・2期生交流会								
	スポーツチャレンジ研究助成			○審査委員会(第2期生選考)									
	国際スポーツ奨学金												○平成21年度第3期生募集 ○第3期生一次審査

活動報告

- 「スポーツチャレンジウィーク」開催** ▶活動実績編 参照
 - 3月25日～27日にマイプラザにてスポーツチャレンジウィークを下記内容にて開催
 - ① 第1期生の年間チャレンジ報告
⇒ 審査委員に対して1年間の自身のチャレンジ成果を報告。発表者全員が1年間のチャレンジを振り返り、客観的成果とプロセス成果を独自の視点で分析・発表するとともに、次の新たな目標設定をしたことに大きな意義があった
 - ② 第1期生への修了証授与式
⇒ 第1期生の年間チャレンジ報告終了後、長谷川理事より第1期生に対して修了証を授与した
 - ③ 第2期生への助成金授与式
⇒ 文部科学省 生涯スポーツ課 渡邊課長補佐を迎え、贈呈式を行い、1年間のチャレンジがスタート
 - ④ 第1期生、第2期生、審査委員、事務局の交流会
⇒ お互いの発表に対する意見交換や審査委員からのアドバイスなどコミュニケーションを図った
- 第1期生へのチャレンジサポート**
 - 3月の「スポーツチャレンジウィーク」での成果発表に向けての資料作成についてアドバイス
⇒ 特に体験チャレンジャーに対して発表の要点整理などのアドバイスを行った
- チャレンジャーの努力と成果**
 - 第1期生全員が目標に向かうチャレンジ努力の中で、客観的成果(勝敗や記録)とともに人間的成長など、自分の次のチャレンジの糧になる何かをつかんだことに大きな意義があった
- 第2期生の募集とチャレンジャー決定** ▶活動実績編 参照
 - 平成19年9月1日～11月20日に第2期生募集実施
⇒ 体験助成 29件、研究助成 65件、奨学生 23件(計 117件)
 - 平成20年1月28日の審査委員会にてチャレンジャー決定
⇒ 上記から体験助成 14件、研究助成 12件、日本人奨学助成 3件、外国人奨学助成3件を決定
- 第2期生へのチャレンジサポート**
 - 4月～翌年3月までの年間計画提出と四半期報告を実施し、3ヶ月ごとに振り返りをしてもらうと同時に浅見審査委員長から適確なアドバイスを行った
⇒ チャレンジャーにとって励みとなっている
 - 体験チャレンジャーを中心に事務局スタッフの応援訪問を実施。レポートをWEBサイトに掲載
⇒ チャレンジャーにとって応援とレポートが良い刺激となりパワーとなっている
- 第3期生の募集**
 - 9月1日～11月20日の期間、平成21年度 第3期生の募集を行った
⇒ 体験助成 46件、研究助成 75件、日本人奨学助成 2件、外国人奨学助成 15件(計 138件)の応募があり、平成21年1月下旬の面接および審査委員会にて第3期生を決定予定

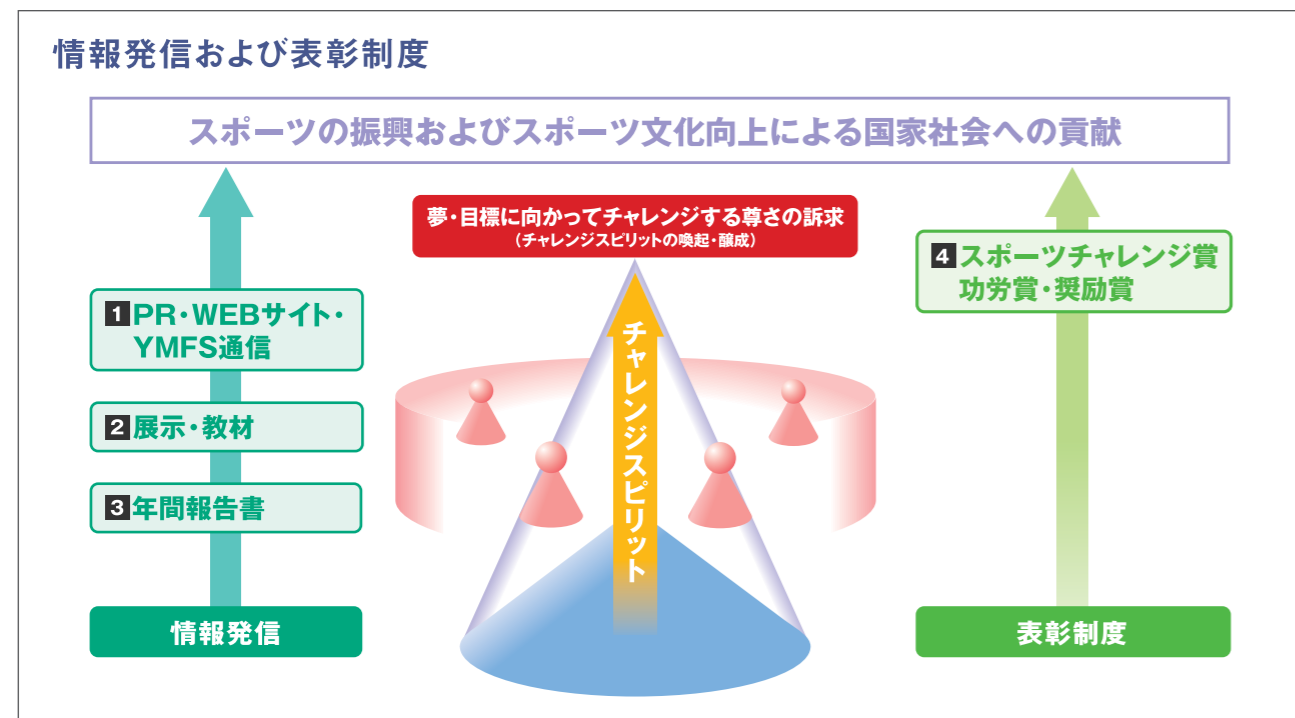
総括と課題

- 事業目的である「世界に羽ばたく逞しい人材の育成」という点では、客観的数値目標の達成成果だけでなく、人間的な成長やスキルアップ、研究上の成果物も多く、チャレンジャーにとって大変有意義な1年を経験したと思われる
⇒ 四半期報告、アドバイス、スポーツチャレンジウィークなどのチャレンジサポートも一役買ったものと思われ、今後も今まで以上に充実したコミュニケーション活動を行う
- チャレンジャー募集については、昨年の第2期生募集同様の日程で第3期生募集を行ったが、体験助成、研究助成共に応募件数が増加した(前年比18%増)。加えて、論文審査段階ではあるが、全体的に申し込み内容のレベルが向上しており、事業活動がクチコミやWEBサイトを介して、徐々に浸透しているものと思われる
⇒ 今後は、浅見審査委員長をはじめとする審査委員の協力を仰ぎながら、今まで以上のサポートを行う

スポーツ文化事業

テーマ	財団活動の理解浸透および「チャレンジすることの尊さ」の訴求
課題	「チャレンジする尊さ」を各ステークホルダーにいかに確実に情報伝達するか

活動概要



年間スケジュール

スポーツのライフスタイル化「チャレンジする尊さ」の訴求	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 PR・WEBサイト・YMFS通信	各種リリース・インフォメーション&WEBサイト充実											
2 展示・教材			東京国際ポートショーにて財団紹介								ラブリアースイベントにて財団紹介	
3 年間報告書		年間報告書作成										
4 年間表彰制度												スポーツチャレンジ賞 功労賞・奨励賞 インフォメーション 推薦受付

活動報告

1 PR・WEBサイト・YMFS通信

① リリース・インフォメーション・YMFS通信

●各事業についてリリースとインフォメーションをあわせて以下のメディアに情報発信

浜松経済記者クラブ	メディア	文科省クラブ 日体協クラブ	教育委員会 (県市区町村)	体育協会 (各都道府県)	主要大学	理事・評議員・審査委員	体験助成・研究助成対象者	YMFC内	関連企業	計
17	361	100	2,019	56	239	25	34	73	36	2,960

⇒リリース・インフォメーション・YMFS通信ともに発信効果が薄い

	2007年	2008年
リリース・インフォメーション	11件 → 49件掲載	10件 → 39件掲載
YMFS通信	4回 発行 → 反応薄い	2回 発行 → 反応薄い

② WEBサイト ▶活動実績編 参照

●2007年9月のリニューアル後、ユーザビリティの向上と情報量の増加を図った
⇒3月開催の「スポーツチャレンジウィーク」でのチャレンジ報告情報の掲載でビクター数、閲覧ページ数共に上昇したもののその後は横ばい傾向

2 展示・教材

- 展示については、財団活動の理解促進を目的に、東京国際ポートショー、ラブリアース環境イベントおよびヤマハ発動機コミュニケーションプラザ内の財団事務所前にてパネル展示を実施
⇒草の根的活動であり、急激な効果はないものの、現場では問い合わせなどもあった
- セーリングスクール用テキスト・DVDを制作し、販売を開始
⇒教材については、各提携スクールへの配布およびWEBサイト販売を実施し、テキスト約140冊、DVD約130枚を出荷

3 年間報告書

●2月に平成19年度(2007年度)の年間報告書を作成。関係各所に配布

4 表彰制度・YMFSスポーツチャレンジ賞の企画とインフォメーション ▶活動実績編 参照

●「YMFSスポーツチャレンジ賞 功労賞・奨励賞」を企画。関係各所にインフォメーション
⇒スポーツ関連団体から功労賞候補13件、奨励賞候補10件の推薦をいただいた
⇒スポーツチャレンジ賞選考委員会にて審議を経て、3月開催のスポーツチャレンジウィークにて表彰

総括と課題

- スポーツ文化事業のテーマの一つは財団活動の理解浸透であり、事業活動をリリース・インフォメーション・WEBサイトにて情報開示
⇒リリース、インフォメーションを通じたメディアでの掲載件数は伸びがなく、間接的1WAYコミュニケーションでの理解浸透に工夫が必要
⇒WEBサイトでの情報開示に関しては、チャレンジャーレポートやコラムの充実を図ることで一定の成果を得たが、更なる情報の質と量の充実を図り、2WAYコミュニケーションに近づける努力が必要
- もう一つのテーマである「チャレンジする尊さ」の訴求に関しては、目標にひたむきに努力するチャレンジャーの姿をレポートし、YMFS通信やWEBサイトに掲載
⇒スポーツチャレンジ助成への応募やWEBサイトへのビクター数増加など成果は上がったものの、まだまだ浸透している状況ではなく、事業自体の充実と有効的な情報開示の検討が必要
- 「チャレンジする尊さ」を訴求し、チャレンジスピリットの喚起を図るべくスポーツ振興に貢献した「緑の下の力持ち」を表彰する「スポーツチャレンジ賞 功労賞・奨励賞」を設置。関連スポーツ団体ほかへインフォメーションし、推薦を促した
⇒このインフォメーションにより、功労賞13件、奨励賞10件の推薦があった
⇒関連スポーツ団体に対して「賞の意義」や「財団の考え」の浸透が図られた

MEMO

活動実績編

スポーツ振興支援事業

スポーツチャレンジ助成事業

スポーツ文化事業

第20回全国児童「水辺の風景画コンテスト」

■応募状況について

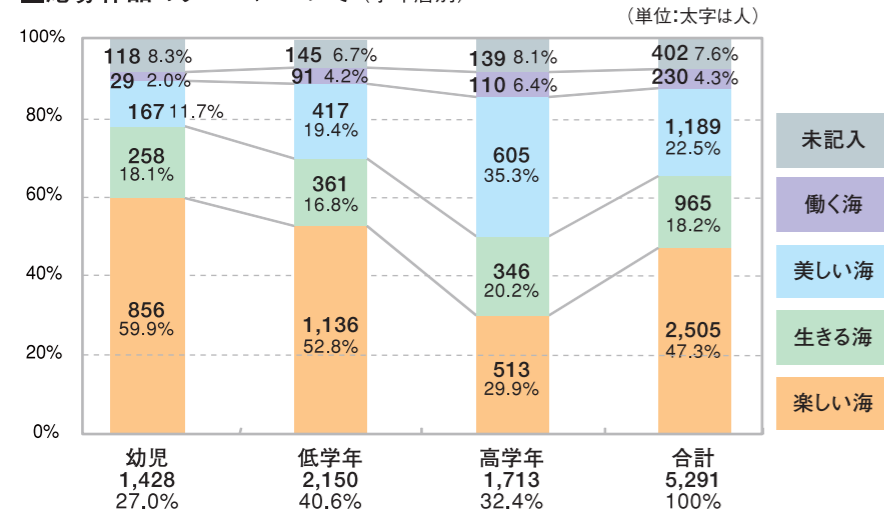
■都道府県別応募状況 (応募期間：平成20年7月10日～9月30日) (単位:人)

	幼児	小学校		合計
		低学年	高学年	
北海道	217	40	20	277
青森県	44	25	32	101
岩手県	0	1	7	8
宮城県	36	57	47	140
秋田県	0	0	1	1
山形県	7	31	23	61
福島県	21	70	85	176
茨城県	50	98	46	194
栃木県	0	6	11	17
群馬県	0	2	1	3
埼玉県	0	280	226	506
千葉県	9	135	140	284
東京都	1	3	6	10
神奈川県	57	100	82	239
新潟県	0	40	31	71
富山県	0	4	3	7
石川県	60	29	12	101
福井県	0	10	14	24
山梨県	0	2	1	3
長野県	70	28	41	139
岐阜県	1	36	10	47
静岡県	64	122	93	279
愛知県	7	0	0	7
三重県	85	8	2	95
滋賀県	0	67	46	113
京都府	4	27	3	34
大阪府	2	22	12	36
兵庫県	4	21	20	45
奈良県	1	7	2	10
和歌山県	35	57	43	135

	幼児	小学校		合計
		低学年	高学年	
鳥取県	12	29	24	65
島根県	118	6	3	127
岡山県	5	107	75	187
広島県	71	6	4	81
山口県	40	1	3	44
徳島県	17	54	65	136
香川県	19	0	0	19
愛媛県	0	56	73	129
高知県	0	8	11	19
福岡県	55	87	49	191
佐賀県	0	39	18	57
長崎県	189	43	23	255
熊本県	0	140	144	284
大分県	0	14	3	17
宮崎県	0	73	43	116
鹿児島県	121	145	109	375
沖縄県	6	14	6	26
Thailand	0	0	0	0
合計	1,428	2,150	1,713	5,291
H19応募数	1,264	2,932	2,177	6,373
H18応募数	1,406	1,091	847	3,344
前年伸長率	113%	73%	79%	83%

- 全国47都道府県からの応募
- 幼稚園からの応募増加に対し、小学校からの応募は減少
⇒ 参加賞廃止の影響か(入選数を増やしたが・・・)
⇒ 学校の担当教諭同士で引継ぎがされていない
- 3大都市圏東京都、愛知県、大阪府からの応募が少ない

■応募作品のテーマについて (学年層別) (単位:太字は人)



- 高学年になるに従って、授業で教わる生き物や漁港で働く人々への関心および環境意識の高まりがうかがえる。一方で、海や水辺で泳ぐ・潜るなどの体験の減少を危惧
- 幼児と低学年では、「楽しい海」と「生きる海」の厳密な区別は判断しにくいと思われる。海や水辺に対する興味・関心の継続を願う

■受賞作品と表彰式

文部科学大臣賞	「魚の水泳教室」	前川 青葉 (まえかわ あおば) 高知市立昭和小学校 3年
---------	----------	-------------------------------



表彰式

開催日時 11/25 (火) 13:00～

表彰式開催地 高知市立昭和小学校 校長室

出席者 昭和小学校 西川校長、保護者

賞状代読 西川校長




国土交通大臣賞	「働く船」	西川 鈴夏 (にしかわ すずか) 高知市立神田小学校 4年
---------	-------	-------------------------------



表彰式

開催日時 11/25 (火) 8:30 ～ [児童集会]

表彰式開催地 高知市立神田小学校 体育館

出席者 国土交通省 四国地方整備局 高知港湾空港整備事務所 北原政宏所長 同総務課長 緒方様 同企画調整課係長 松尾様 教頭他職員、全校児童、保護者

賞状代読 北原政宏所長 (高知港湾空港整備事務所)




■受賞作品と表彰式

環境大臣賞	「サンゴとお魚さんいっぱいの碧い海で」	大串 碧海(おおくし あみ) 明石市立沢池幼稚園 年長
-------	---------------------	-----------------------------



表彰式	
開催日時	11/27(木) 11:00~
表彰式開催地	明石市立沢池幼稚園
出席者	八木園長、全職員、全園児、保護者
賞状代読	八木園長




農林水産大臣賞	「勝浦漁港は大忙し」	吉田 大河(よしだ たいが) 那智勝浦町立色川小学校 6年
---------	------------	-------------------------------



表彰式	
開催日時	11/26(水) 11:45~
表彰式開催地	那智勝浦町役場 応接室
出席者	那智勝浦町役場 中路副町長 同産業課長 橋爪様 那智勝浦町教育委員会教育長 笠松様 担任教員、保護者 クラスメイト(5・6年生)
賞状代読	中路副町長




■入賞作品

	金 賞	銀 賞	銅 賞
小学校 高学年	 「海に入るみこし」 林 果奈枝 平塚市 港小学校 6年	 「港祭りの朝」 村田 優未 高知市 6年	     
小学校 低学年	 八木 かいと 鹿児島県曾於市 末吉小学校 3年	 岡崎 温 高知市 横内小学校 3年	      
幼 児	 「お魚さん大きくなってね」 平野 陽菜 浜松市 蛸塚幼稚園 (5歳)	 「おおきなタコがでた〜!」 八木 鈴 佐世保市 三浦保育園 (6歳)	      

■特別賞

 フィッシャリーナ協会会長賞 「イカつり漁船」 吉田 昂翠 船橋市 5年	 日本マリーナ・ビーチ協会会長賞 「うつくしい海をまもろう」 高橋 萌 新居浜市中萩小学校 4年	 日本舟艇工業協会会長賞 「シーカヤックをする僕」 大西 悠貴 岡山市 5年	 ジャパンゲームフィッシュ協会会長賞 「うみのなか」 太田 海斗 三浦市上宮田小学校 3年
 ヤマハ発動機賞 「わっ 大きなカニ」 海野 裕未 磐田市 2年	 ワールドチルドレンズファンド賞 「お兄ちゃん大好き!」 高石 茉奈 山口県熊毛郡麻郷幼稚園 (4歳)	 日本ユネスコ協会連盟賞 「お魚さん大きくなってね」 鈴木 菜摘 浜松市 蛸塚幼稚園 (5歳)	

スポーツ教材提供

■ 応募状況

■ スポーツ教材の応募状況について

平成20年度の「スポーツ教材の提供」へは全国から191通に及ぶ応募があった。昨年度に引き続き、今年度のスポーツ教材の中で最も応募が多かったのがストップウォッチで、応募全体の42%を占め、以下サッカー4号球、サッカー5号球、万歩計、ラグビージュニア球、ラグビー公式球の順となった

■ スポーツ教材の応募団体について

応募団体については小学校(37%)、中学校(18%)で過半数を占め、この他に総合型地域スポーツクラブや、スポーツ少年団などさまざまな団体からの応募があった

● 応募状況

	小学校	中学校	高等学校	幼稚園・保育園・ 養護学校	総合型地域スポーツクラブ ・スポーツ少年団など	その他	合計
サッカー5号球	1	15	3	2	3	3	27
サッカー4号球	21	0	0	1	25	6	53
ラグビー公式球	0	2	1	0	2	0	5
ラグビージュニア球	5	0	0	1	4	0	10
ストップウォッチ	38	17	0	2	12	12	81
万歩計	6	0	1	4	2	2	15
合計	71	34	5	10	48	23	191

■ 都道府県別の応募状況について

都道府県別の応募状況では、東京都が16通で最も多く、次に北海道(15通)、千葉(13通)、静岡(9通)の順となった

■ スポーツ教材提供先抽選会

■ 概要

- [日時] 7月4日(金)
- [場所] 岸記念体育会館
- [抽選者] 岡崎 助一
- [提供先] 次頁参照



■ 特別提供について

2008年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震で災害に見舞われた宮城県栗原市からの2団体について、子供たちにスポーツを通して早く元気になってもらいたいという願いを込めて特別枠を設定し、応募されたスポーツ教材を提供した

- 宮城県栗原市立鶯沢小学校:ストップウォッチ
- 宮城県栗原市立尾松小学校:サッカーボール4号球

■ 提供機器一覧

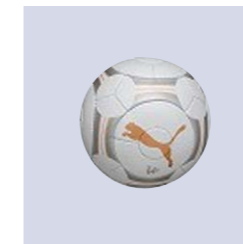
■ 教育機器提供先リスト

● サッカーボール公式球&練習球(5号球) 10セット



種別	団体名	都道府県	導入目的
中学校	長沼町立中央長沼中学校	北海道	部活動
体育協会	財団法人盛岡市体育協会	岩手県	大会
中学校	柏市立南部中学校	千葉県	部活動
中学校	葛飾区立東金町中学校	東京都	休み時間・球技大会
中学校	西東京市立ひばりが丘中学校	東京都	授業・部活動
中学校	志摩市立越賀中学校	三重県	授業
団体	フットボールクラブW1	三重県	トレーニング・試合
教育委員会	千早赤坂村教育委員会	大阪府	中学選択講座
高等学校	兵庫県立夢野台高等学校	兵庫県	部活動
中学校	米子市立美保中学校	鳥取県	部活動

● サッカーボール練習球(4号球) 10セット



種別	団体名	都道府県	導入目的
サッカー協会	おいらせ町サッカー協会	青森県	スポーツ少年団指導
サッカー協会	青森市サッカー協会	青森県	スクール
体育協会	東松島市体育協会	宮城県	スポーツ教室
サッカー協会	荒川サッカー広場	東京都	フットサル教室
少年団	竜北サッカースポーツ少年団	山梨県	練習・試合
小学校	三好町立三好丘小学校	愛知県	部活動・授業
小学校	志摩市立片田小学校	三重県	練習
小学校	四篠駅市立岡部小学校	大阪府	授業
少年団	西牟田サッカースポーツ少年団	福岡県	練習・大会
小学校	津久見市立堅徳小学校	大分県	授業

●ラグビーボール公式球(一般用)3セット



種別	団体名	都道府県	導入目的
中学校	大阪市蓋中学校	大阪府	部活動
少年団	飯田川ラグビースクール中等部	秋田県	練習・合宿
高等学校	法政大学高等学校ラグビー部	東京都	部活動

●ラグビーボール公式球(ジュニア用)5セット



種別	団体名	都道府県	導入目的
小学校	釜石市立小佐野小学校	岩手県	クラブ活動
団体	特定非営利活動法人スポーツクラブホワイエ上石神井	東京都	スクール・体操教室
団体	浜名湖ラグビースクール	静岡県	ラグビー教室
幼稚園	宮津市立宮津幼稚園	京都府	園児教育
小学校	松山市立津和地小学校	愛媛県	スポーツタイム

●システムストップウォッチ(プリンター付き)15セット



種別	団体名	都道府県	導入目的
小学校	羽幌町立羽幌小学校	北海道	陸上・サッカー
団体	財団法人中標津町文化スポーツ振興財団	北海道	マラソン大会
総合型クラブ	むかわスポーツクラブ「むーブ」	北海道	マラソン大会・練習
小学校	秋田市立御所野小学校	秋田県	マラソン記録会
養護学校	新潟県立柏崎養護学校	新潟県	授業・スポーツ大会
陸上競技協会	熊谷市陸上競技協会陸上競技教室	埼玉県	陸上競技教室
中学校	宮代町立百間中学校陸上競技部	埼玉県	陸上競技部活動
教育委員会	熱海市教育委員会生涯学習課	静岡県	陸上競技教室
団体	京都市小学校スポーツ連盟	京都府	小学校記録会
小学校	津山市立喬松小学校	岡山県	水泳・マラソン記録会
体育協会	大島一周駅伝競走大会	山口県	駅伝大会
中学校	松山市立北条南中学校	愛媛県	授業・体育大会・マラソン大会
中学校	大豊町立大豊中学校	高知県	水泳・陸上・マラソン大会・授業
教育委員会	津野町教育委員会	高知県	陸上記録会
中学校	上天草市立数良木中学校	熊本県	持久走大会

●万歩計3セット



種別	団体名	都道府県	導入目的
小学校	三好市立川崎小学校	徳島県	体力づくり
小学校	三好市立吾橋小学校	徳島県	運動会・陸上
養護学校	大分県立南石垣養護学校	大分県	教育支援調査研究

■報告について

■報告書提出状況

提供教材	提供数	提供団体数	報告書提出	提出率(%)
サッカーボール(5号球)	公式球2個/練習球3個	10	10	100.0
サッカーボール(4号球)	練習球5個	11	7	63.6
ラグビーボール(一般用)	公式球3個	3	3	100.0
ラグビーボール(ジュニア用)	ジュニア用3個	5	3	60.0
システムストップウォッチ(プリンター付き)	ストップウォッチ2個	16	13	81.3
万歩計	万歩計10個	3	3	100.0
合 計		48	39	81.3

■報告書全体の感想

機器提供を通し、授業やクラブ活動および競技会などで有効に活用され、子どもたちのスポーツに対する活動意欲や向上心がアップしているとのコメントが多く寄せられる。また、モノを大事にするようになったなどのコメントも

●東松島市体育協会(宮城県)

導入機器:サッカーボール(4号球)
導入目的:スポーツ教室



▲ドリブルリレーをする小学生

東松島市体育協会では市と連携し、提供されたサッカーボールを利用して幅広い層でスポーツを楽しめるニュースポーツを実施

●新潟県立柏崎養護学校(新潟県)

導入機器:システムストップウォッチ
導入目的:授業・スポーツ大会



▲正式種目「スラローム」競技を練習する生徒(全国障害者スポーツ大会にて)

正式種目「スラローム」競技を練習する生徒(全国障害者スポーツ大会にて)

●浜名湖ラグビースクール(静岡県)

導入機器:ラグビーボール公式球(ジュニア用)
導入目的:ラグビー教室



ジュニアから大人までを集めたスクール活動を実施。ラグビーボール提供で、一人一人がボールに触れる機会が多くなり、限られた時間の中で、効果的な講習を行うことができるようになった。また、参加者相互の人間関係を深め合いながら、ラグビーの楽しさを体験する機会が増えた

●三好市立吾橋小学校(徳島県)

導入機器:万歩計
導入目的:運動会・陸上



登下校時に徒歩よりも車での送り迎えをしてもらう児童が多いため、体力の向上を目指し、万歩計を利用して自らの歩数を計測。児童自身が万歩計の数字で確かめることにより、あまり好んで運動をしなかった児童が、休み時間に駆け足やなわとびをするようになるなど、児童が意欲的に運動場に出るという大きな効果があった



スポーツチャレンジ助成事業

スポーツチャレンジウィーク

■体験チャレンジャー第1期生成果発表会

開催日:3月25日 開催場所:マイプラザ
 【内 容】体験チャレンジャー16名の成果発表、質疑応答、審査講評、修了式、懇親会
 【出席者】長谷川理事長、浅見審査委員長、岸川審査委員、箱守、福原ほか
 ※第1期生に加え、第2期生数名が参加

【レポート】

- 今年度のチャレンジが自己の夢目標に対して何合目かなど、今年目標に対しての自己分析や課題抽出が的確であり、それに対する次年度からのチャレンジ目標、具体的施策も明確。来年以降の彼らの活躍にも大いに期待が持てる
- 発表者全員が、メモや原稿用紙などは持たず、自分の意志と言葉で解りやすく表現。1年間PDCAをよく循環させた



▲体験チャレンジャー(第1期生) サッカー・レフェリーカレッジ成果発表



▲北京パラリンピック陸上100m、走り幅跳び代表山本さんの発表



▲1年前の決意表明同様、新たなチャレンジを誓い合う



▲中京女子大学公式野球部の発表



▲チャレンジャーに敬意を表し 長谷川理事長より修了証を贈呈

■研究チャレンジャー第1期生成果発表会

開催日:3月26日 開催場所:マイプラザ
 【内 容】研究チャレンジャー18名の成果発表、質疑応答、審査講評、修了式、懇親会
 【出席者】長谷川理事長、浅見審査委員長、篠原審査委員、伊坂審査委員、景山審査委員、綿貫審査委員、(吉田審査委員)
 ※第1期生に加え、第2期生数名が参加

【レポート】

- 研究チャレンジャーは、流石にプレゼンテーションに慣れており、理路整然とした発表で、かつ制限時間も正確で、解りやすい発表だった
- 審査委員のコメントや質問も的確で、傍聴者も発表に集中できた
- 懇親会も互いの親睦を深めると共に、発表会同様、次年度からのチャレンジスピリットを一層高めるものとなった



▲早稲田大学スポーツ科学学術院 沼尾さんの発表



▲EAACL 名古屋大学 山本さんのビデオによる発表



▲1年前の決意表明同様、新たなチャレンジを誓い合う



▲発表に対してコメントする伊坂審査委員



▲全体の講評をする浅見審査委員長

総 評

- チャレンジャーが1年間目標に向かって努力し得たもの(成果)を、数値や勝敗で捉えた客観的成果と、精神面や人間的成長などのプロセス成果を自分の言葉で表現した姿は、聞か者に改めて「目標にチャレンジすることの尊さ」を訴えた
- 上記のことは、チャレンジャーへの1年間の支援が正しかったことを証明すると共に、今後も応援したくなる気持ちにさせ、審査委員の誰もがチャレンジャーの努力に敬意を表し、高い評価を与えた
- その意味において、「チャレンジャーの成果=事業の成果」であり、着実に事業成果を上げたといえる

総 評

- 研究成果発表は、どれも可能性を感じる発表であり、チャレンジャーの努力の跡がうかがえた
- 既に、学会や関係機関への論文投稿を行い、評価待ちの研究もあり、一気に花開く可能性を感じる
- 研究チャレンジにおいては成果目標が明確であり、どのチャレンジャーも自己分析や課題認識のレベルが高く、次年度からの目標も明確で、今後も大いに期待が持てる
- その意味において、「チャレンジャーの成果=事業の成果」であり、着実に事業成果を上げたといえる

スポーツチャレンジ体験助成

■チャレンジャー第2期生への助成金贈呈式

開催日:3月27日 開催場所:マイプラザ

【内容】理事長挨拶、渡邊課長補佐激励、贈呈式、浅見審査委員長コメント、決意表明、記念撮影

【出席者】助成対象者(体験チャレンジャー13名、研究チャレンジャー12名、奨学生5名 ※奨学生1名欠席)、長谷川理事長、浅見審査委員長、文部科学省 生涯スポーツ課 渡邊課長補佐

【プレス】静岡新聞、静岡朝日テレビ、テレビ神奈川、テレビ新潟、広島テレビ、教育家庭新聞、ベースボールマガジン、ボイックス、タンデムスタイル



▲文部科学省渡邊課長補佐から激励のご挨拶



▲長谷川理事長から助成金贈呈書の授与



▲これから一年、目標に向かって「チャレンジするぞー!」



▲チャレンジャーから決意表明



▲チャレンジャーの決意の寄せ書き

■応募状況とチャレンジャー

■応募状況

		第1期	構成比	第2期	構成比
性別	男性	61	82.4%	18	62.1%
	女性	13	17.6%	11	37.9%
構成	個人	36	48.6%	19	65.5%
	グループ	38	51.4%	10	34.5%
年齢	10代	7	9.5%	5	17.2%
	20代	25	33.8%	14	48.3%
	30代	18	24.3%	6	20.7%
	40代	12	16.2%	3	10.3%
	50代以上	12	16.2%	1	3.4%
	平均年齢	34.8歳		26.8歳	
属性	アスリート	27	36.5%	20	69.0%
	指導者	5	6.8%	1	3.4%
	審判	4	5.4%	2	6.9%
	スポーツ振興	30	40.5%	1	3.4%
	障害者スポーツ	5	6.8%	4	13.8%
	その他	3	4.1%	1	3.4%
応募総数		74	100%	29	100%

■第2期生応募(競技別)

陸上	7
サッカー	3
ラグビー	2
馬術	1
モータースポーツ	1
ロードレース	1
自転車	1
トライアスロン	1
バドミントン	1
スキー	1
スノーボード	1
リュージュ	1
スケート	1
カヌー	1
ラフティング	1
フィンスイミング	1

- 団体からの運営援助申請はなし
⇒ 個人の夢実現ポリシー浸透
- 年齢構成比で若者層が増加
- 女性比率が高くなっている
- 全体的に応募者の質・レベルは高い

■体験チャレンジャー(第2期生)について

スポーツチャレンジ体験助成審査委員会(2008年1月28日開催)にて下記チャレンジャーを決定

	氏名	年齢	性別	職業	大学名	属性	競技種目	体験テーマ
個人	野下 由希子	35	女			アスリート	馬術	アジア大会をステップに 夢はオリンピック、世界選手権、ワールドカップ出場
個人	徳安 達士	30	男	高専教師		アスリート	自転車	フランス自転車文化体験と選手育成方法の体験学習
個人	安藤 浩貴	23	男	学生	ドイツ馬術学校	アスリート	馬術	馬術指導者を目指して
個人	米津 毎	24	女	会社員		アスリート	走高跳	世界へ挑戦する選手になるために
個人	多川 知希	21	男	大学生	早稲田大学	障害者 スポーツ	100m走	北京パラリンピック向け、100m10秒台の世界へ
個人	大槻 卓	29	男	高校教諭		審判	ラグビー	IRBパナレルフリーへのチャレンジ
個人	原田 窓香	21	女	大学生	信州大学	アスリート	リュージュ	語学力(ドイツ語)と競技力の向上
グループ	THE RIVER FACE	28*	女*	会社員*		アスリート	ラフティング	ラフティング世界大会で表彰台を目指す!
個人	谷川 哲朗	22	男	大学院生	大阪教育大学	アスリート	フィンスイミング	フィンスイミングの競技力向上 ~世界へ飛ばすために~
個人	石倉 恵介	42	男	大学院生	筑波大学	アスリート	トライアスロン	トライアスロン世界最高峰の大会 (アイアンマン・ハワイ)においてエイジ優勝への挑戦
個人	山口 真理恵	18	女	高校生		アスリート	ラグビー	女子ラグビーの発展と進歩
グループ	レフェリーカレッジ (サッカー)	25*	男*	大学生*	明星大学	審判	サッカー	レフェリーカレッジ2008 ~トップレフェリーを目指して~
個人	岡本 達也	21	男	大学生	順天堂大学	アスリート	サッカー	世界で闘える選手になる
個人	森下 主税	19	男	大学生	日本福祉大学	障害者 スポーツ	陸上	世界陸上800m・1500m出場権獲得

※グループの年齢・性別・職業は、代表者のもの

総 評

- 体験チャレンジャーにおいては各種競技アスリートをはじめ、指導者、レフェリーを目指すなど多岐にわたるチャレンジが多く、また、オリンピックでの入賞やパラリンピックでのメダルを目指すなど、第1期生に勝るとも劣らない活躍が期待でき、関係各位からの応援を願う
- 研究チャレンジャーにおいても、研究目標レベルは高く、大いなる成果を期待
- チャレンジャーには、緊張の中にも目標達成への強い意志を感じた

スポーツチャレンジ研究助成

■応募状況とチャレンジャー

■応募状況

	第1期	構成比	第2期	構成比	
性別	男性	93	92.1%	59	90.8%
	女性	8	7.9%	6	9.2%
構成	個人	48	47.5%	28	43.1%
	GR	53	52.5%	37	56.9%
年齢	10代	0	0.0%	0	0.0%
	20代	31	30.7%	10	15.4%
	30代	42	41.6%	30	46.2%
	40代	20	19.8%	20	30.8%
	50代以上	8	7.9%	5	7.7%
	平均年齢	35.09歳		37.95歳	
ジャンル	専門	28	27.7%	20	30.8%
	基礎	56	55.4%	41	63.1%
	文化	17	16.8%	4	6.2%

	第1期	構成比	第2期	構成比	
職業	教授	6	5.9%	5	7.7%
	准教授	18	17.8%	21	32.3%
	講師	16	15.8%	13	20.0%
	助手	6	5.9%	0	0.0%
	教諭	5	5.0%	3	4.6%
	大学院生	28	27.7%	17	26.2%
	団体研究員	3	3.0%	2	3.1%
	大学生	6	5.6%	1	1.5%
	その他	13	12.9%	3	4.6%
	応募総数	101	100%	65	100%

- 応募総数が前年より36件減少
- 年齢がアップ(20代が30・40代にシフト)
- 教授、准教授、講師の比率アップ
⇒ 質、レベルが高くなっている感あり

■研究チャレンジャー(第2期生)について

スポーツチャレンジ助成審査委員会(2008年1月28日開催)にて下記チャレンジャーを決定

	氏名	職業	大学名	研究テーマ
グループ	東京医科歯科大学 医学部附属病院 高気圧治療部	講師	東京医科歯科大学	スポーツ軟部外傷に対する高気圧酸素療法の有効性の検討 肉離れおよび内側副靭帯損傷に対して
グループ	独立行政法人 理化学研究所 生体力学シミュレーション 特別研究ユニット	団体研究員		ヒト生体における腱組織のひずみの不均一性と 腱断裂の発生部位との関連性
グループ	片山 敬章	講師	名古屋大学	低酸素トレーニングによる生活習慣病改善・予防の可能性 ～糖代謝・脂質代謝に着目して～
グループ	名古屋大学 総合保健体育科学センター スポーツバイオメカニクス研究室	准教授	名古屋大学	発育・発達に伴うサッカーキック動作の習熟過程 ～ジュニアユースからプロ選手までの横断的アプローチ～
個人	羽倉 信宏	大学院生	京都大学	道具が身体表象に取り込まれる過程の研究
個人	木島 章文	准教授	福山平成大学	竹刀先端運動量の音程・音量変換による素振り動作の表現
グループ	スクールターフ 環境評価プロジェクト	教授	山口大学	スクールターフによる暑熱環境の改善に関する 放射・熱収支の評価
個人	川中 健太郎	准教授	新潟医療福祉大学	運動嫌いの原因となる遺伝子
グループ	日本赤十字 北海道看護大学	准教授	日本赤十字 北海道看護大学	人工炭酸泉のスポーツ選手への応用 ～筋及び全身疲労回復促進と筋持久力向上の可能性～
個人	永澤 健	講師	沖縄高等専門学校	近赤外分光法を用いた新しいフィジカルコンディション評価 指標の開発～持久性競技スポーツ現場への応用を目指して～
個人	小西 優	准教授	防衛大学校	前十字靭帯損傷患者の筋力低下のメカニズムについて
グループ	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 仰木研究室	准教授	慶應義塾大学	スポーツにおける飛翔するヒト・用具の新たな運動解析法

国際スポーツ奨学金

■応募状況と奨学生

■応募状況

●日本人海外留学生

	第1期	構成比	第2期	構成比	
性別	男性	1	50%	1	33.3%
	女性	1	50%	2	66.7%
応募総数	2	100%	3	100%	

- 応募数が少ないのは制度上の問題か?
それとも魅力がない?
- 応募者のレベルは高い

●外国人国内留学生

	第1期	構成比	第2期	構成比	
性別	男性	8	57.1%	17	85.0%
	女性	6	42.9%	3	15.0%

国籍	中国	10	71.4%	13	65.0%
	韓国	3	21.4%	7	35.0%
	ニュージーランド	1	7.1%	0	0%

留学先	大学	4	28.6%	10	50.0%
	大学院	10	71.4%	9	45.0%
	その他	0	0.0%	1	5.0%
	応募総数	14	100%	20	100%

- 中国・韓国が全ての応募を占める
⇒ 理由として、日本が米国に次ぐスポーツ
研究先進国であること
- さらに多国からの応募を期待

■奨学生(第2期生)について

スポーツチャレンジ助成審査委員会(2008年1月28日開催)にて下記奨学生を決定

●日本人海外留学生

氏名	年齢	性別	現所属	留学国	留学先学校名	助成 年数	テーマ
吉田 旭絵	24	女	新潟大学	オーストラリア	La Trobe University	2	オーストラリアにおけるスポーツ教育の探究と わが国におけるその活用可能性に関する研究
大屋 友紀子	25	女	佐賀大学	アメリカ	Harvard School of Public Health	2	運動療法の生理学的機序と 障害者スポーツへの応用に関する研究
桜井 義久	25	男	東京工業大学	アメリカ	Sport Biomechanics Laboratory, Department of Mechanical and Aeronautical Engineering, University of California, Davis	1	ランニング動作のシミュレーション

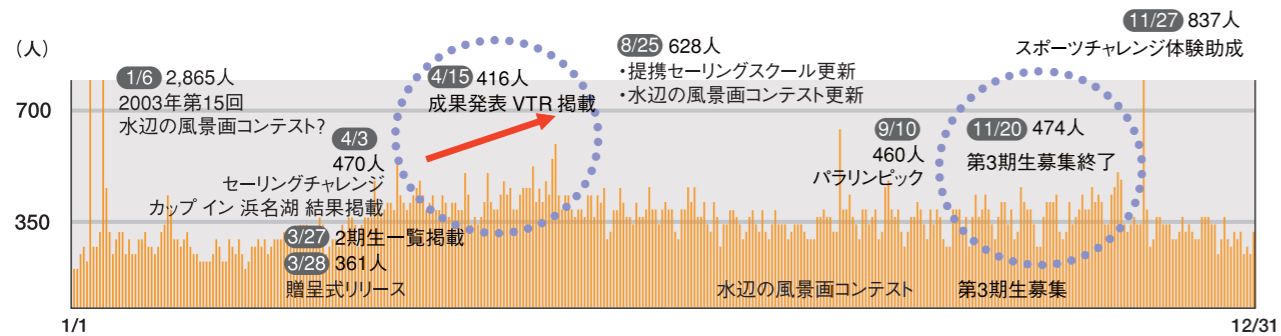
●外国人国内留学生

氏名	読み	国籍	年齢	性別	大学名	所属	助成 年数	テーマ
林 建	リンケン	中国	32	男	神戸大学大学院	人間発達環境学研究所	1	間欠運動時における人の体温調節特性
金 玗兌	キム ヒョンテ	韓国	25	男	早稲田大学	スポーツ文化学科	2	スポーツ組織のマネジメント
林 錫峻	リム ソンジュン	韓国	20	男	早稲田大学	スポーツ文化学科	2	スポーツマーケティングの確立と発展

スポーツ文化事業

WEBサイト

■1日当たりのビジター数推移 (2008/1/1～2008/12/31)

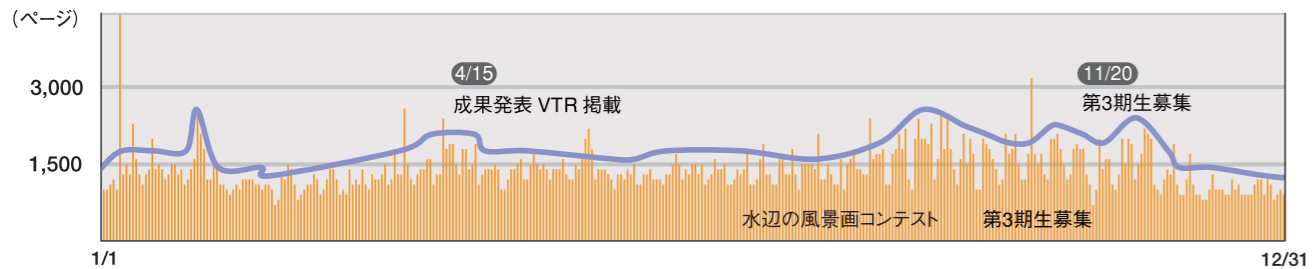


- 1日あたりビジター数は約350人⇒更なる増加を図る
- 3月のスポーツチャレンジウィーク以降、安定傾向
- ところどころの落ち込みは更新頻度の減少に比例

リンク元 (YMFS サイトへの訪問前サイト) 上位

1	Yahoo! 検索
2	ヤマハ発動機
3	Google 検索

■1日当たりの閲覧ページ数推移 (2008/1/1～2008/12/31)



- 1日当たりの閲覧ページ数は1,414ページ
- 一人当たり閲覧ページ数は約4ページ
- 閲覧ページ数増加の要因
 - ・スポーツチャレンジウィーク後のチャレンジャー発表資料の掲載
 - ・内容の充実 (コラムなど)
 - ・見やすさ、扱いやすさなど
- 閲覧ページ数減少の要因
 - ・新しい情報の更新頻度減少

閲覧ページ上位

1	トップページ
2	セーリングスクール
3	水辺の風景画コンテスト
4	第15回水辺の風景画コンテストコメント
5	スポーツチャレンジ研究助成トップ
6	スポーツチャレンジ助成トップ
7	スポーツ教材提供
8	理事長メッセージ
9	スポーツチャレンジ研究助成募集要項
10	ジュニアヨットスクール葉山

財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団 WEBサイト : <http://www.ymfs.jp/>

表彰制度「スポーツチャレンジ賞 功労賞・奨励賞」

■ヤマハ発動機スポーツ振興財団・スポーツチャレンジ賞とは

わたしたちヤマハ発動機スポーツ振興財団の理念は、スポーツで自己の夢の実現に向かってチャレンジする人びとを応援し、グローバルな視野と行動力を持つ「社会にとって有用な逞しい人材の育成」です。

その理念のもと、夢・目標に向かって「チャレンジすることの尊さ」を社会に訴求し、チャレンジスピリットの喚起、世界に羽ばたく逞しい新たなチャレンジャーの創出を目的に創設する表彰制度が、ヤマハ発動機スポーツ振興財団・スポーツチャレンジ賞です。

表彰の対象となるのは、夢・目標に挑戦し続けたチャレンジの軌跡です。競技、指導・研究、普及、ジャーナリズムなどスポーツに関する幅広い分野において、自己の目指す目標に立ち向かい、自分自身を磨き上げた、その人(チーム)の「チャレンジ」そのものを称え、そのたゆまぬ努力のプロセスとその成果に敬意を表するものです。また、指導者、研究者、トレーナーなど、「縁の下の力持ち」的な存在にスポットライトをあて、そのチャレンジを称え、チャレンジの意義を社会に知らしめることで、新たなチャレンジャーにとっての励みとなると共に「努力は報われる」ということが社会に浸透していくことを期待しています。

■設置する賞について

ヤマハ発動機スポーツ振興財団・スポーツチャレンジ賞は、以下の2つの賞を設置します

- 現在のスポーツ普及・振興の礎となった長年もしくは過去のチャレンジに対する「功労賞」
 - その年に、世界トップレベルの成果を生み、今後さらなる成長を期待される、短期的もしくは中期的なチャレンジに対する「奨励賞」
- いずれの賞も対象となるのは、プロセスとその成果において大きな鍵を握っていた世界レベルのチャレンジや、スポーツ振興の進化・発展につながるチャレンジなどで、これまで注目を浴びることの少なかった、本来高く評価されるにふさわしいチャレンジを表彰します

●各賞の概要

	功労賞	奨励賞
対象となるチャレンジ	現在のスポーツ振興の礎となった長年にわたるスポーツ振興への貢献や、過去の先駆的実績を誇るチャレンジ	今後のスポーツ振興に大きな影響力の発揮が期待される、その年、極めて高い成果をあげたチャレンジ
表彰対象者	既に優れた成果をあげ、功をなした人物	その年、高い成果をあげ、今後さらなる成長が期待される人物(チャレンジ発展途上人)
条件	これまでの長い期間、注目を浴びることの少なかった、本来高く評価されるにふさわしい、「縁の下の力持ち」的な存在であること	その年に高い成果をあげながらも、注目を浴びることの少なかった、本来高く評価されるにふさわしい、「縁の下の力持ち」的な存在であること
評価のポイント	長年もしくは過去に行われ、年数が経ってから高い成果と認められた、尊敬に値する礎的・先駆的チャレンジであること。 例えば、指導者、研究者、審判、ジャーナリスト、カメラマンなどによる、その競技やスポーツ全体の底上げに貢献、もしくは海外などで裾野拡大に尽力したチャレンジなど	短期的もしくは中期的に行われ、その年に高い評価を受けた称賛に値するチャレンジであること。 例えば、指導者、研究者、トレーナー、サポートメンバー、審判、ジャーナリストなどによる、世界レベルの成果を発揮するにあたり、重要な役割を果たしたチャレンジなど
賞金および副賞	賞金100万円(チームの場合は200万円)・賞状・メダル	賞金100万円(チームの場合は200万円)・賞状・メダル

■ヤマハ発動機スポーツ振興財団スポーツチャレンジ賞 功労賞・奨励賞のイメージマップ

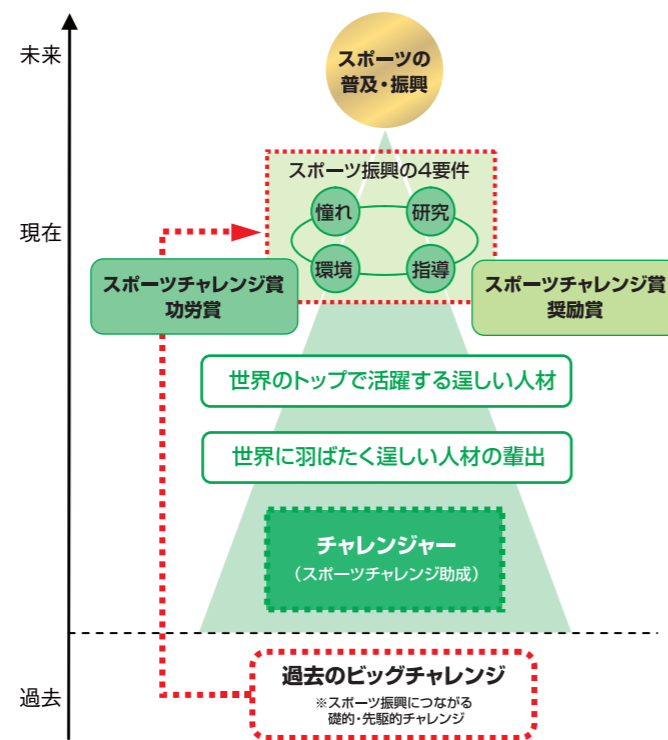
YMFSでは、スポーツの普及・振興のためには、**憧れ、環境、指導、研究**の4要素の充実が不可欠であると考えています。

そこで、ヤマハ発動機スポーツ振興財団・スポーツチャレンジ賞では、スポーツ振興のための4要素(分野)において、

- 現在のスポーツ振興につながる礎的・先駆的なチャレンジを功労賞の対象に、
- その年に世界トップレベルの成果を生んだチャレンジを奨励賞の対象とします。

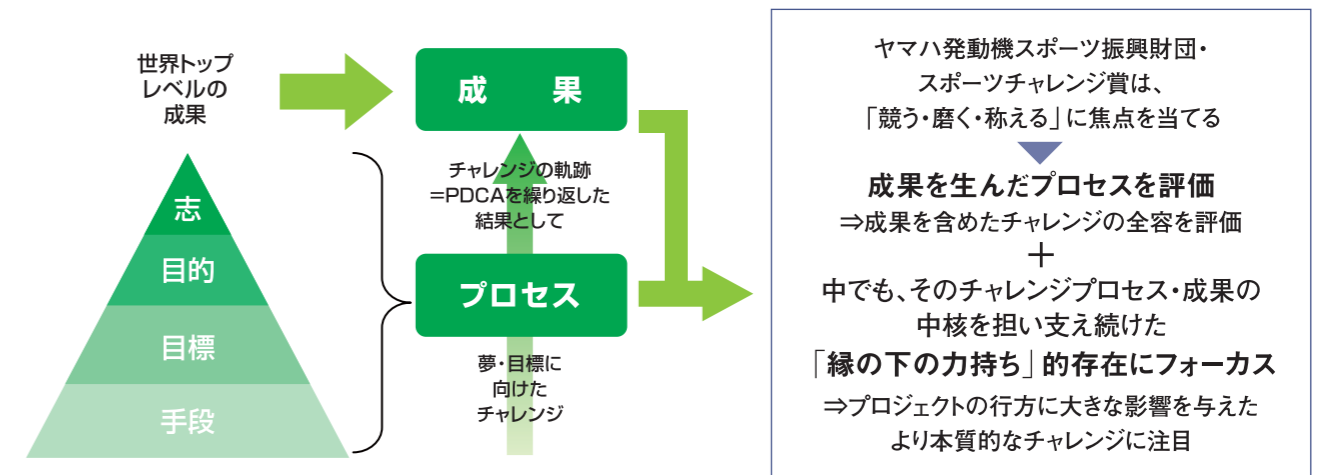
中でも、そのチャレンジにおいて重要かつ中核的な役割を果たした「縁の下の力持ち」的な存在にフォーカスし、本来高く評価されるべき人材に賞を授与、スポットライトを当てていきます。

※なお、YMFSでは、スポーツの裾野拡大、世界に羽ばたく逞しい人材の輩出を目的とした、スポーツチャレンジ助成事業を実施しています。



■評価の視点について

ヤマハ発動機スポーツ振興財団・スポーツチャレンジ賞は、スポーツマンシップ・フェアプレーの原点である「競う・磨く・称える」の3要素に焦点を当てて評価を行います。これは、成果を生み出した取り組みやプロセスに着目し、成果のみならず、チャレンジの全容を評価、称えることが、新たなチャレンジャーにとって大きな励みとなると考えるからです。また、中でも、そのチャレンジプロセス・チャレンジ成果において、極めて重要な役割を担った、本来高い評価を受けるべき縁の下の力持ち的存在にフォーカスし、努力は報われることを世の中に伝えていきたいと考えています。



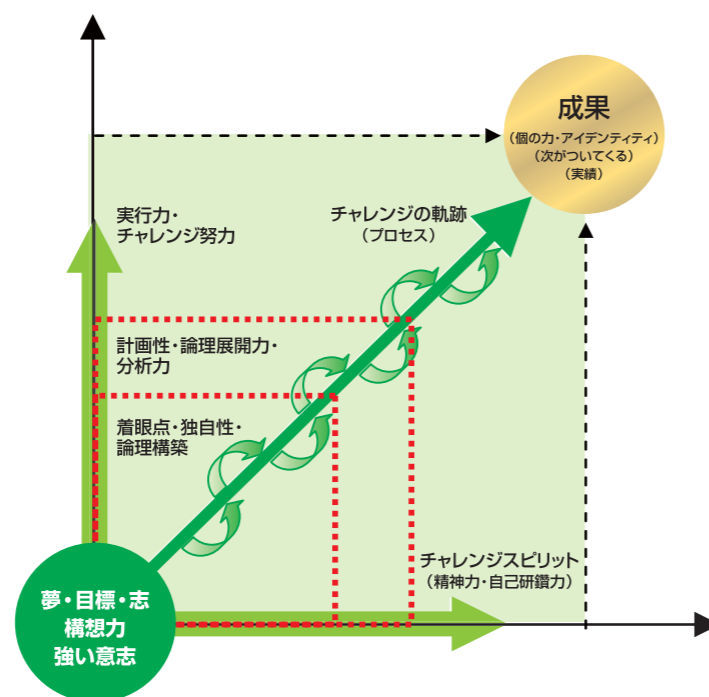
■YMFS が考えるチャレンジ成果

YMFSでは、チャレンジとは目標達成の為の自分との戦いであり、自己能力をどう伸ばして達成に結びつけるかが重要だと考えています。

そのためには、夢や志、目標を掲げ、目標達成へのプロセスを明確に描く力、そして強い意志を持ち続けることが原点です。

チャレンジスピリット(やりきる強い精神力・自己を磨く意志の強さ...)などの「心を磨く」**努力**と、発想力・企画力・理論構築・計画力・展開力・実行力・分析力・管理能力などの「**技・体を磨く**」**努力**が、成果として発揮されるのです。

その成果は一朝一夕に達成されるものではなく、心技体を磨くプロセスの中にこそ成果を生む原動力があり、それがチャレンジスピリットであると考えています。



■具体的な評価項目

● 表彰の対象となるチャレンジは、以下の5つの条件を満たしたものとします

- ① フェアプレー・スポーツマンシップ溢れるチャレンジ
- ② 誰もが評価する、異論・反論のないチャレンジ
- ③ スポーツ振興4要素の拡充につながるチャレンジ
- ④ 世界に羽ばたく逞しい人材育成、創出につながるチャレンジ
- ⑤ 社会のチャレンジスピリットの喚起につながるチャレンジ

● 候補者の選定においては、以下の4つを評価のポイントとします

- ① このチャレンジなくして、この成果なしという世界レベルチャレンジ
- ② スポーツ振興の進化発展につながるチャレンジ
- ③ 本来高く評価されるにふさわしいチャレンジ
- ④ これまで注目を浴びることの少なかった人
=> その人の「チャレンジ」にスポットライトを当てることにより目的・狙いを達成

● 具体的な評価においては、以下の3項目を評価の軸とします

- ① 目指す目標のハードルの高さや計画性・緻密性・実行性
- ② プロセスとその成果紹介がもたらす社会的訴求インパクト
- ③ 称賛・尊敬するにふさわしい品格・人間性

■表彰対象者の決定フロー

表彰対象者は、大学、学会、日本体育協会、競技団体、メディア、ジャーナリスト他からの推薦、および選定事務局からの推薦によりリストアップされた候補者の中から、2段階の審査を実施、当財団理事長の承認を経て決定します。なお、審査の過程において、表彰の基準を満たす対象者がいないと判断された場合には、その年の表彰を見送る場合もあります

選定事務局 候補者リスト作成 ※2008年12月5日まで	⇒ 候補者リストの作成 【選定方法】 ・大学、学会、日本体育協会、競技団体、メディア、ジャーナリストほかからの推薦 ・選定事務局からの推薦
選定事務局 候補者選考会 ※2008年12月～2009年1月	⇒ 候補者リストから相応しい候補者絞り込み 【検討事項】・チャレンジの品格とレベル確認 （社会から尊敬されるチャレンジであることの確認） ・候補者データによる審査と追加意見、推薦 【決定条件】選定事務局全員の承認
選考委員会 選考会議 ※2009年1月下旬 賞決定予定	⇒ 理事長に諮問する受賞候補者の絞り込み 【検討事項】・YMFSの意思である新たなチャレンジャーの創出に対する貢献度 （チャレンジの軌跡・PDCAによる成果の裏づけ） ・チャレンジの品格とレベル確認 （社会から尊敬されるチャレンジであることの確認） 【決定条件】選考委員会全員の承認 ⇒ 理事長の承認にて受賞対象者の決定
表彰式 ※2009年3月27日 表彰式予定	⇒ 日本青年館にて表彰予定

■スポーツチャレンジ賞選考委員

■審査委員長

浅見 俊雄 東京大学 名誉教授・日本体育大学 名誉教授*

■審査委員

西田 善夫 元NHKアナウンサー・スポーツ評論家*	綿貫 茂喜 九州大学大学院 芸術工学研究院 教授
加賀谷 淳子 日本女子体育大学 名誉教授*	ヨーコ ゼッターランド 元バレーボール選手・指導者*
福永 哲夫 鹿屋体育大学 学長・東京大学 名誉教授*	今給黎 教子 海洋スポーツインストラクター・冒険家*
伊坂 忠夫 立命館大学 理工学部 教授	村田 亘 ラグビー7人制日本代表 監督*
景山 一郎 日本大学 生産工学部 教授	大坪 豊生 ヤマハ発動機株式会社 取締役
草加 浩平 東京大学大学院 工学系研究科 特任教授	鈴木 正人 ヤマハ発動機株式会社 取締役
篠原 菊紀 諏訪東京理科大学 共通教育センター 教授	岸川 善次郎 ヤマハ発動機スポーツ振興財団 事務局長*
寒川 恒夫 早稲田大学 スポーツ科学研究院 教授	

※印の選考委員は選定事務局兼務

(敬称略)

MEMO